



2021年 7月
七尾市立図書館友の会発行者
発行責任者
芹田玲子

図書館まつり無念の中止に

「友の会のつどい」待機「ちよ図ボラ」再開

七尾市立図書館主催の「図書館まつり」は新型コロナウイルス感染症防止のため本年も無念の中止となりました。「本のバザール」に向けて出品の準備をされていた方には申し訳ありませんが保管

※ちよ図ボラ(ちよつと図書館ボランティアの愛称)

の延長をお願いします。なお友の会は「ちよ図ボラ」※の書架整理を少人数で再開しました。いっぽう「友の会のつどい」は待機とし、ワクチンが行き渡った段階で、状況をみながら再開の予定です。

七尾古写真アーカイブから



馬出町にあった鹿島郡役所です。大正期のベストセラー「地上」を書いた島田清次郎も一時ここに勤めていました。清次郎の波乱の生涯は、わが七尾出身の杉森久英が「天才と狂人の間」に著わし、直木賞受賞に至りました。

七尾の古写真は下記のURLで
<http://www.nanaoarchive.com/>

アーカイブ(保管庫または記録)

図書館の書棚

大活字で読みやすく

図書館には約200冊

シニア層むけに大きい活字の本が出版されています。

読みやすくなったと言いますが、どれほど文字が大きくなったのでしょうか。A5サイズの単行本で比べてみましょう。文は東野圭吾著「ナミヤ雑貨店の奇蹟」から引用しました。

【旧タイプの本】

あばらやに行こう、といい

だしたのは翔太だった。手順なあばらやがあるんだ、と。

【大活字本】

あばらやに行こう、と
いいだしたのは翔太だった。手順なあばらやがあるんだ、と。

いかがですか、旧タイプ本の文字は約3ミリ角、大活字本は約4ミリ角です。縦横を少し伸ばしただけでずいぶん大きく感じます。七尾市立図書館には約200冊あるそうです。ご利用を。(田)

『90歳セツの新聞ちぎり絵』

木村セツ(著) 里山社(刊)



新聞の、カラー印刷の部分を使ったちぎり絵。ハンバーガー、ブロッコリー、すいか、どれも生きが良くておいしそうです。セツさんのみみずみずしい感覚と、ほのかなユーモア。そして、新聞という素材の美しさ――

新聞の、カラー印刷の部分を使ったちぎり絵。ハンバーガー、ブロッコリー、すいか、どれも生きが良くておいしそうです。セツさんのみみずみずしい感覚と、ほのかなユーモア。そして、新聞という素材の美しさ――

本の虫

▼二十年ほど前、一度聴いた郭公の鳴き声が忘れられなくて近辺の野

山を探し回ったことがある。気多大社は入らずの森うらに折口信夫の句碑「くわつこうのなく村すぎて山の池」を見つけたのもこの頃だ。けつきよく郭公には出会えなかったが、代わりにホトトギスが登場した。夜中の一二時でも鳴く不心得者がが子守歌にも聴けて悪くはない▼ホトトギスの鳴く季節が来て本紙第二号の発行を迎えました。トップ記事で中止に待機にと書かねばならないのが今号の辛い処ですが、そんななか皆さんからの寄稿が七点もそろいました。順次掲載の予定です。ただ、スペースの限られた紙面です。お待ちさせることも、紙面割付けのため文意を変えない範囲での添削もありませんのでご理解をお願いします▼第3号発行は十月の予定です。

*「90歳セツの新聞ちぎり絵」：市立図書館では中島館から取寄せての貸出しもしています。

会名は「いちご族」と苺から

十五（いちご）の会 芹田玲子



一九九二年五月に茶道の師、奥村佳子先生に誘われスタートしました。会の名前は、当時、団塊ジュニアのいちご族（十五歳世代）と初日に苺を食べたことが相まってすんなりと決まり今日に至っております。

読後、感想など話し合います。毎回横道にそれてしましますが、どちらもためになっております。近年は図書館の方に選書して頂き感謝しております。

「おとなのための一分音読」（山口謠司著）は、皆の反応が即ありました。大きな文字でルビもふつてあ

るけれど、口が回りません。結構難しいけれど声をだして読む楽しさを仲間であらわえました。

やわやわと楽しんでいる会です。



紫陽花や風が尾を引く山の寺
(撮影) 寺野時雄

夏のクッキング

てまひまかけたキャラブキ

20年ほど前、職場のKさんのお母様が作ったキャラブキを食べて、あまりの美味しさにレシピをいただきました。それ以来毎年作って楽しんでいます。(Qちゃん)

(材料)

フキ	2 kg
しょうゆ	2 カップ
酒	1.5 カップ
砂糖	700 g
一味唐辛子	適宜

(作り方)

- ① 山ブキをゆでて皮をむく
- ② 3 cmほどに切って鍋に入れる。
上記の調味料を上に乗せ、弱火で1時間煮る
- ③ これを3日続けて、煮汁がなくなるまで煮て仕上げる。
- ④ 仕上げに市販の瓶の一味唐辛子を15回ほど振りかける。



◆ポイント

- 1, 皮をむく
- 2, 水をいれない
- 3, 途中で味を足さない

《寄稿のひろば》

最近のテレビを見て

寺尾 晴彦

今の十、二十代の約半数は、テレビを見ないという。その代わりにネットを見ているらしい。私は主な理由として、テレビはネットと比べてあまりに一面的、偏りすぎて見る気にならないのではないかと

思う。

たとえば、ニュースの時間は連日、コロナの感染者数だけを伝えていくが、ネットではいろんな情報が流れて、その中には信じられないような内容もあり玉石混交である。

しかし、テレビよりも身近で現実的である。

以前、大騒ぎになった森喜朗発言にしても、ワイド番組では一方的な意見ばかり流されたが、ネットの世界では逆に女性重視しているという意見も多い。脱炭素、地球温暖化、環境保護という言葉も耳ざわりがいいけれど、テレビというほど世界は単純なものではなく、ネットや新聞以外の本を読んで自分で調べて考えてみるしかないのではと思う。

我が家のへんなおじさんにエール

Kおばさん



飼っていた柴犬が戌年に死にました。我が家のへんなおじさん（七六才）は暫く寂しそうにしていましたが、ある日から玄関に写真とお数珠を並べ、毎日「南無阿弥陀仏」と書くようになりました。以前、清水聖鵬先生のお習字教室に参加して筆ペンで文字を練習していました。少しは自信があったのか、書き始めるようになりました。毎日朝は「おはよう」お昼は肉うどんの好きなおじさんは自分が食べる前に「お肉だよお食べ」

と並べます。夜は「今日もありがとう」とブツブツなにやら話しをして一日を終わります。

最初私はあれあれと不思議に思っていました。まあボケ防止なっていました。今では変なおじさん頑張れと応援しています。

《玄関には一代目の雌の柴犬シーザーちゃん享年一三才、二代目の雄の柴犬シーザー君、享年一五才》がおじさんの相手をしています。